

栄誉の歴史と悲劇の歴史が地域コミットメントと地域活動への参加意向に与える影響*

Effects of History of glory and it of tragedy on Community Commitment and Willingness to Participate in Community Activities *

引地博之**・大淵憲一***・青木俊明****

By Hiroyuki HIKICHI**・Ken-ichi OHBUCHI***・Toshiaki AOKI****

1. はじめに

住民の地域活動に対する協力を促す要因として、地域コミットメント（地域に対する誇り・愛着、住民としての自覚）が挙げられている。その要因の1つは地域の歴史資産（歴史的建造物、伝統儀礼、説話など）である¹⁾。我々は、歴史資産が過去住民に対する共通性感覚の増大と地域価値の象徴という2つの要因を通して住民の地域コミットメントを強化することを見いだした²⁾。しかし、地域の歴史資産には、政治的、経済的、文化的な繁栄を象徴するものだけでなく、戦争や災害などの悲劇を伝えるものもある。こうした悲劇の歴史資産もまた住民の地域コミットメントを強め、地域活動に対する協力を促すのであろうか。

コミットメントの第1の要因は、地域住民が歴史的な場所や建造物を訪れたり、伝統的行事や祭礼に参加した際に、過去住民と経験を共有しているという感覚が生じるというものである。こうした歴史的資産のはたらきは、それが栄誉の歴史を伝えるものであろうと悲劇の歴史を伝えるものであろうと、同様にはたらくと考えられる。それ故、どちらの地域の住民も歴史資産にふれることで、過去住民に対する共通性感覚を抱くであろうと思われる。

第2の要因は、歴史資産の象徴的価値である。過去の栄光を物語る栄誉の歴史資産は地域の観光資源であると同時に、住民にとって地域の誇りであることから、それが象徴的価値を持つことは間違いない。一方、悲劇の歴史資産はどうであろうか。その中には、有名な戦跡地のように、歴史に関心のある人たちの惹きつける史跡となっているものがあることから、栄誉の歴史資産ほどではないにしても、地域の高い社会的価値を象徴するものである。また、他地域からの評判はともかく、地域住民に

とっては、たとえ悲劇であっても、歴史はその地域の固有性にとって無くてはならないものであり、その意味で、象徴的価値を持つと考えることができる。

以上のことから、我々は、栄誉であれ悲劇であれ、歴史資産は、過去住民との共通性感覚を高め、地域の社会的価値を象徴することによって、住民の地域コミットメントを強め（仮説1）、地域活動に対する協力意向も高めると予想した（仮説2）。しかし、悲劇の歴史資産は、ある場合には、不名誉な出来事を伝えるものであることから、その価値機能は余り強くないと思われる。それ故、我々は、悲劇の歴史資産は栄誉の歴史資産に比べると、象徴的価値は低いと予測した（仮説3）。

以上より、両地域住民の地域コミットメントおよび地域活動に対する協力意向の形成メカニズムは同じであるが、一部の要因に差が生じていると考える。なお、どちらの地域でも、引地ら²⁾と同様に、歴史資産について熟知度が高い住民ほど、他の要因や地域コミットメントが強いと予測した。

2. 調査方法

郵送法による社会調査を行った。調査対象者は栄誉の歴史資産の多い地域（奈良県奈良市、東京都文京区、宮城県松島町）と悲劇の歴史資産の多い地域（広島県広島市中区、東京都墨田区、福島県会津若松市）から、それぞれ1200名（計2400名）を選挙人名簿から無作為に選出した。有効回答者数は、前者462名（男性：208、女性：251、不明：3）、回収率：38.5%、平均年齢：52.2歳（SD=15.51）、平均居住年数：26.7年（SD=18.29）、後者403名（男性：186、女性：215、不明：2）、回収率：33.6%、平均年齢：52.3歳（SD=15.60）、平均居住年数：28.4年（SD=19.77）であった。

調査票では、地域の歴史資産の熟知度、歴史資産の象徴的価値、過去住民に対する共通性感覚、地域コミットメント、地域活動に対する協力意向を測定したが、その際には、引地ら²⁾の尺度を用いた。その後、回答した際に想起した歴史資産が、栄誉の歴史資産か悲劇の歴史資産であったかをたずね（質問文）、5点尺度を用いて評定させた（1: 栄誉の資産～5: 悲劇の資産）。

*キーワード: 意識調査分析、地域計画、イメージ分析

**学生会員、工修、東北大学大学院文学研究科
(宮城県仙台市青葉区川内27-1、

TEL: 022-675-6048、E-mail: hikichi@sal.ac.jp)

***非会員、文博、東北大学大学院文学研究科

****正会員、情博、東北工業大学

(宮城県仙台市太白区八木山香澄町35-1、

TEL: 022-305-3507、E-mail: shunmei@tohtech.ac.jp)

3. 結果

質問紙に回答する際に、想起した歴史資産について検証したところ、栄誉の歴史地域住民は、悲劇の歴史地域住民に比べて、栄誉の歴史資産を有意に強く想起していた ($M = 2.12, SD = 0.87; M = 3.74, SD = 1.05; t(781.34) = 24.48, p < .01$)。

各尺度の平均評定値を算出し(表-1)、その地域差を検証したところ、歴史資産の熟知度、過去住民に対する共通性感覚、地域コミットメント、地域活動に対する参加意向に地域差は見られなかったが ($t(820.73) = 1.45, t(863) = 0.10, t(816.15) = 1.24, t(863) = 1.07$, 全て $p = ns$)、歴史資産の象徴的価値は、栄誉の歴史地域の方が悲劇の歴史地域よりも高かった ($t(816.15) = 2.19, p < .05$)。これらの結果は、地域コミットメントおよび地域活動に対する協力意向の強さに差はないが、これを生み出す要因には地域差があることを示している。

次に、歴史資産による地域コミットメントの形成機構を検証するために、2つの地域に対して母集団の同時分析を行った。我々の理論モデルに従って分析を行ったところ(図-1, 図-2)、全ての因果係数が有意で、適合度も十分に高かった ($\chi^2 = 678.27, p < .001, GFI = .905, CFI = .933$)。また、線形仮説の検定を用いて因果係数の群間差を検定したところ、栄誉の歴史地域の「歴史資産の熟知度」から「過去住民に対する共通性感覚」に対する因果係数(.71)が悲劇の歴史地域のそれ(.62)に比べて有意に大きいことが示されたが ($Z = 2.47, p < .05$)、その他に有意な差は見られなかった。一部の因果係数に地域差は見られたものの、我々が仮定したモデルは両地域に共通したものであると言える。

さらに、居住年数を統制して、モデルの妥当性を再検証したが、この再分析でも、図-1、図-2のパスはすべて有意で、またその適合度も良好であったため ($\chi^2 = 753.53, p < .001, GFI = .903, CFI = .928$)、住民の居住年数の長さには拘らず、我々のモデルは妥当であることが示された。以上の分析結果より、仮説1、2が共に支持された。

4. 考察

分析結果から、悲劇の歴史地域住民は、栄誉の歴史地域住民に比べて、歴史資産の象徴的価値を低く評価していた。しかし、両地域の歴史資産による地域コミットメントの形成メカニズムは基本的に同じであることが示された。このことから、悲劇の歴史資産は、地域の価値を他の地域住民に誇示する機能は強くないものの、地域コミットメントの形成に貢献することを示している。

また、悲劇の歴史地域において地域コミットメント

表-1 地域ごとの各平均評定値

	栄誉の歴史地域	悲劇の歴史地域
	平均値(SD)	平均値(SD)
熟知度	3.11(0.94)	3.21(1.03)
象徴的価値	4.35(1.00)	4.19(1.07)
共通性	3.60(0.85)	3.60(0.87)
地域コミットメント	3.67(0.93)	3.58(1.03)
協力意向	3.93(0.83)	3.87(0.90)

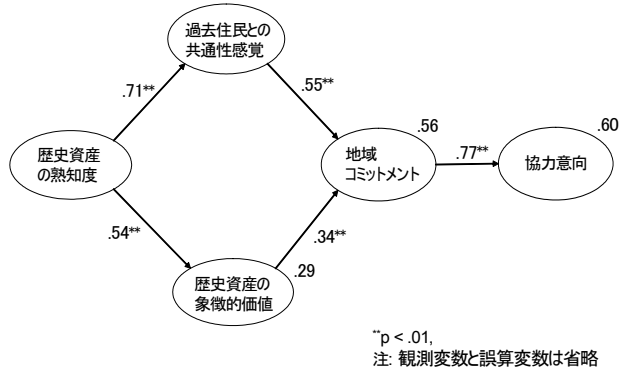


図-1 栄誉の歴史地域の地域コミットメント形成

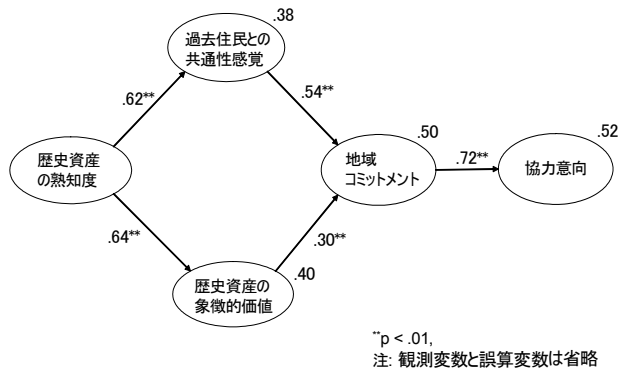


図-2 悲劇の歴史地域の地域コミットメント形成

の形成を促すためには、悲劇の歴史資産がもつ社会意義を強調することが有益であろうと考えられる。

参考文献

- 1) 引地博之, 大淵憲一, 青木俊明: 居住地における協力行動の促進—歴史資産と地域コミットメントの効果—, 日本社会心理学会第50回大会・日本グループダイナミクス学会第56回大会合同大会, CD-ROM, 2009.
- 2) Mazumdar, S. and Mazumdar, S.: Religion and place attachment: A study of sacred places, *Journal of Environmental Psychology*, Vol.24, pp.385-397, 2004.

付記: 本稿は東北大学グローバル COE プログラム・社会階層と不平等教育研究拠点においてなされた研究の成果である。